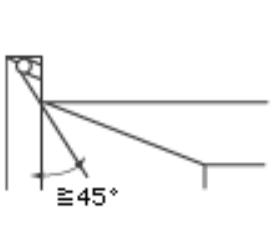
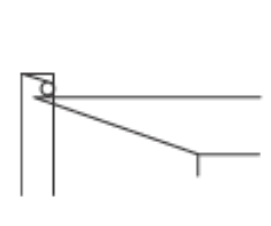
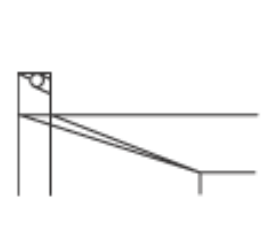
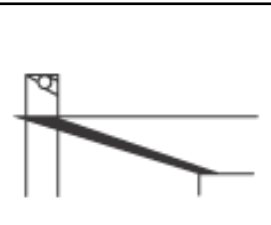
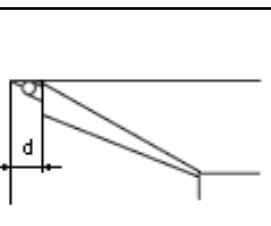
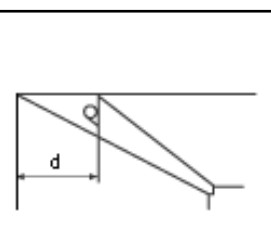


3.9 建築化照明

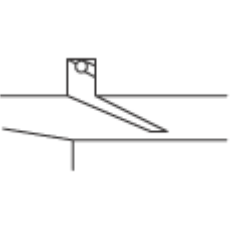
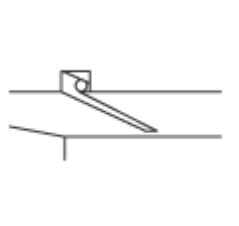
3-121

建築化照明とは、「光源を天井や壁などに組み込み、建築構造と一体化させた照明方式」をいいます。次にそれぞれの照明方式の特徴を示します。

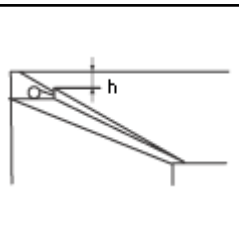
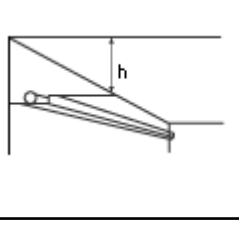
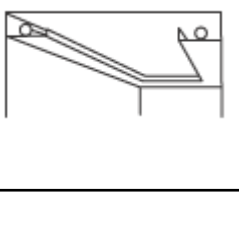
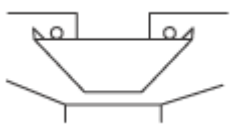
■コーニス照明

図	特徴
	<p>コーニス(下面開放)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●壁が明るくなり、広がり感が得られる。 ●カーテン・ブラインド照明によく用いられる手法である。 ●ランプが視野に入らないためには、遮光角が45°以上必要である
	<p>コーニス(ランプ遮光)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●壁が明るくなり、広がり感が得られる。 ●通路などでコーニスに平行に見る場合に、ランプを見せないための手法である。 ●施工が難しいという欠点がある。
	<p>コーニス(下面拡散ガラス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●壁が明るくなり、広がり感が得られる。 ●コーナー型光天井とよく似た手法となるが、コーニスの場合は幅が狭く線形が強調される。 ●天井と壁の境界部分が目立ったものとなる。
	<p>コーニス(下面ルーバ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●壁が明るくなり、広がり感が得られる ●開放形や拡散ガラス形よりは壁の下方まで明るくなる。 ●エレベータホールや通路などによく用いられる。
	<p>コーニス(凹・dが小さい場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●カーテン・ブラインド照明によく用いられる手法である。 ●コーニスを天井内に納められない場合に用いられやすい。 ●天井が暗く感じられやすい。
	<p>コーニス(凸・dが大きい場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●壁廻りだけが明るくなり、その部分が強調される。 ●カウンターや店舗の棚の照明としてよく用いられる。 ●広がり感が得られる。

■トロファ照明

図	特徴
	<p>トロファ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●アーチ形天井などともによく用いられ、天井空間に明暗の変化が得られる。 ●ランプが直接見えないように視線方向に注意する。ランプ遮光角は45°以上必要である
	<p>トロファ(ランプ遮光)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ランプが直接見えないようにする手法である(無方向性)。 ●空間に変化を与えたり、区分したい場合に用いられる。 ●施工が難しいという欠点がある。

■コーブ照明

図	特徴
	<p>コーブ(hが小さい場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●柔らかい光が空間全体に得られ、影の少ない環境となる。 ●光の帯が天井面に生じ、空間に変化を与える。 ●通路などに用いれば誘導効果がる。
	<p>コーブ(hが大きい場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●影のない柔らかい環境が得られ、店舗などのベース照明として用いられる。 ●天井面が比較的一様に照明され、天井を高く感じさせる。
	<p>コーブ(上り天井)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●シャンデリアと併用されることの多い手法である。 ●天井を高く感じさせ、シャンデリアなどの輝きも適度なものとなる。
	<p>コーブ(下り天井)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●広い空間を視覚的に区分し、空間に変化を与える。 ●ダウンライトなど直接照明によって生じる陰影を和らげる。 ●デパート、ホテルのロビーなどに用いられる。

■光天井

図	特徴
	<p>光天井(全体的)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●曇天時の屋外の雰囲気、影が少ない柔らかい光が得られるが、陰気な感じにもなりやすい。 ●$S \leq 1.5 \cdot h$でほぼ一樣な輝きの光天井が得られる。 ●アクリル系は防災面積の制限有り。
	<p>光天井(部分的)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●天窓がある感じで、明るく軽快な雰囲気が得やすい。 ●グレアレスダウンライトと併用されることが多く、単調になりがちな天井に変化を与える。 ●店舗によく用いられる。
	<p>光天井(凸・部分的)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●天井面が明るくなるので、広く高く感じられる。 ●店舗では絵や模様入ガラスが用いられることもある。 ●光天井は汚れや虫などが目立ちやすく、保守方法が課題である。
	<p>コーナー型光天井</p> <ul style="list-style-type: none"> ●適度な陰影(立体感)が得られとても感じが良い。 ●グレアレスダウンライトと併用されることが多い。天井・壁が明るくなり、高く感じられる。 ●通路などで誘導効果がある。

■ルーバ照明

図	特徴
	<p>ルーバ天井(全体的)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●光天井と同様だが、光の拡散性がやや弱く、壁が暗くなる。 ●$S \leq 1.5 \cdot h$でほぼ一樣な輝きになるが、ランプ長軸方向の光の模様は消せない。 ●アクリル系は防災面積の制限有り
	<p>ルーバ天井(部分的)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●光天井と同様だが、光の拡散性がやや弱く、壁が暗くなる。 ●玄関ホールなどによく用いられ、大メッシュが多くなった。 ●ランプ交換・ルーバの清掃などが課題である。

■バランス照明

図	特徴
	<p>バランス(dが小さい場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●壁に変化を与えるとともに共に広がり感が得られる。 ●バランスの位置に応じ、ランプ遮光角は上側または下側に45°以上が必要である。 ●リビングや通路に用いられる。
	<p>バランス(dが大きい場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●壁廻りが明るくなり、空間を広く感じさせる。 ●間接光が陰影を和らげるとともに、天井を高く感じさせる。 ●カウンターや店舗の棚の照明によく用いられる。
	<p>バランス(ルーバ付)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●壁廻りが明るくなり、空間を広く感じさせる。 ●カウンターや店舗の棚の照明の、グレードの高い手法である。 ●ランプが直接見えにくいにする手法である。

■吊・半間接

図	特徴
	<p>吊・半間接(ルーバ付)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●カウンターや店舗のショーケースの照明としてよく用いられ、空間に境界を創る。 ●間接光が陰影を和らげるとともに、天井を高く感じさせる。